

(別紙1)

## 総括研究報告書

課題番号	2023B-18				
研究開発課題名	乳幼児健康診査における非侵襲的貧血スクリーニング法の確立を目指す研究				
分類*	<input type="checkbox"/> ①	<input checked="" type="checkbox"/> ②	<input type="checkbox"/> ③	<input type="checkbox"/> ④	<input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ <input type="checkbox"/> ⑦
区分	<input type="checkbox"/> A	<input checked="" type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> E	<input type="checkbox"/> S
主任研究者	所属	国立成育医療研究センター 総合診療部 総合診療科			
	役職	診療部長			
	氏名	前川 貴伸			
実施期間	2023年 4月 1日 ~ 2024年 3月 31日				

※分類は下記①～⑦より選択

- ① 日本の成育分野の疾患の研究の基盤となる研究
- ② 診断、治療及び予防法の開発に関する研究
- ③ 発症機序や病態の解明等を行う研究
- ④ 診断や治療のための基準の開発等に関する研究
- ⑤ 患児・者のQOL向上に結びつく研究
- ⑥ 研究的視点や技術をもつ医療従事者を育てるための研究  
(プロトコル作成のフェージビリティ研究)
- ⑦ 政策提言に結びつく研究

### 成果の概要

2023年度は「1歳6か月児および3歳児健康診査における非侵襲的ヘモグロビン測定を用いた貧血スクリーニングの有用性の検討」の研究計画書を作成した。研究計画は、1歳6か月児および3歳児を対象とした乳幼児健康診査（以下、健診）を集団健診として実施している自治体にて、健診を受診した児ならびに保護者のうち研究参加に同意が得られたものを対象として実施する計画とした。対象の保護者から自記式問診票（本研究のために作成）を用いて基本情報を収集し、視診により対象児の貧血の有無を判定し、最後に非侵襲的ヘモグロビン測定器を用いて測定したヘモグロビン値（以下、SpHb値）を測定し、結果はその場で保護者にフィードバックする。WHOの判定基準で中等度以上の貧血（SpHb値が10mg/dL未満）と判定された児は協力医療機関に紹介し、二次スクリーニングと貧血の診断をすすめる。健診受診者の貧血の有病率、治療率を明らかにし、SpHb値測定の有用性を評価する。2024年度は研究実施に向け、研究計画の倫理委員会申請、自治体との打ち合わせを進め、年度内の調査開始を目標とする。そのほか、2014年～2023年までの10年間の救急外来における貧血の有病率（検査数のべ88,000件）を再調査を実施し、その結果をまとめ論文化しているところである。